

12:1 また、大きなしるしが天に現れた。一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。

12:2 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

12:3 また、別のしるしが天に現れた。見よ、炎のように赤い大きな竜。それは、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

12:4 その尾は天の星の三分の一を引き寄せて、それらを地に投げ落とした。また竜は、子を産もうとしている女の前に立ち、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

この「女」は教会であるとの解釈が多いですが、その場合「男の子」の解釈ができなくなります。

「女」は信仰の群れと広く解釈できるかもしれませんが、イスラエルでありその良き代表であるマリア、また新約の教会であり、前者の場合「男の子」はイエス様またはイエスを信じる信仰の群れ、そして後者の場合「男の子」は、携挙されるべきクリスチャン達ということになるでしょう。

それらは違う時代のものですが、天での大いなる戦いの勝利のゆえに地上でも、サタンに勝利して、事が成就したのです。

天の戦いで勝利しているのは私たちであるということ、忘れないで生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

